

博物館だより

令和3(2021)年度の活動

令和4(2022).6

第27号

新潟市北区郷土博物館

〒950-3322

新潟市北区嘉山3452

TEL 025-386-1081

FAX 025-388-6290

museum.n@city.niigata.lg.jp

新収蔵美術作品紹介



作品介绍 齋藤 満栄 (1948年、北蒲原郡葛塚町(現新潟市)生まれ)

「白罌粟^{しらげし}の辺り」1983年、岩絵具、紙 218.3×170.4cm

齋藤満栄は、多摩美術大学において、横山操教室の革新的な気風のなかで新しい日本画表現を模索した後、伝統的な表現に傾倒し、卒業後に日本美術院展同人の堅山南風の内弟子に入りました。1979年、再興第64回院展に「白華」を出品し、初入選。南風の没した翌81年から、本格的に花の写生に没頭しました。

この「白罌粟の辺り」は、齋藤35歳の5回目の再興院展出品で、院友に推挙された作品です。

背景には、群生する白罌粟が意匠に富んだ平面的表

現で描かれています。可憐な花々が白雲のように天空に並び、茎と葉の鬱蒼とした闇の世界が画面の大半を占めて、光陰の対照が様式化されています。そして、この陰の「死」の世界から生まれ出たかのような一株の白罌粟が、妖艶に生の存在を主張しています。

写生とは自然との対峙です。齋藤は、見えたままの草花を写すにとどまらず、そこに見えない自然の営みそのもの、生死の循環のありさまをも開示しているようです。(神田直子)

分館「横井の丘ふるさと資料館」の解体について

川崎 裕子（新潟市北区郷土博物館 館長）

1 開館とその活動

平成29年5月1日から一般公開を中止していました新潟市北区郷土博物館の分館横井の丘ふるさと資料館が、令和4年度に建物を解体することとなりました。この横井の丘ふるさと資料館は、旧豊栄市立横井小学校の特別教室を改装し、分館として平成16年に開館しました。

分館開館前、当館では、考古や民俗、歴史や美術、書など多分野に渡る膨大な資料が収集され、なかでも民俗資料は、当時約2,700点以上あり、本館収蔵庫や内島見倉庫などに分散して収蔵していました。

また、本館常設展示では、地元出身書家 弦巻松蔭の書作品とコレクションが展示されていたため、豊栄市（当時）の歴史や民俗を紹介する場がありませんでした。このことから、平成14年3月に廃校した旧豊栄市立横井小学校の利用について検討が始められました。

当館に収蔵されている貴重な文化財としての民俗資料を整理保存し、後世に継承し、また地域コミュニティや学校と連携しながら、さらに資料の活用を図るため、旧横井小学校の音楽室、理科室として使用されていた特別教室の1棟を残し、学窓のモニュメント、横井の丘のシンボルとして内外装を施し、郷土の歴史を学ぶ場とする「旧横井小学校校舎展示事業」が、平成14～15年度に検討されました。（小学校の本校舎・体育館は解体し、木崎保育園の新設が決



▶分館 横井の丘ふるさと資料館 外観

まっていた。）

この事業では、残った特別教室の校舎を、市民の皆さんから、ふるさとを知り、誇りに思い、新たな時代に向けて想像力をかきたてる空間とし、横井の丘のシンボルとしたとの構想が打ち出されました。

昭和34年に建設された校舎は、既に40年以上経過した建物であることから、耐震性や耐荷重量の不足を補うため、梁・床等の補強と、風雨を防ぐ目的のために、瓦替え・外壁張りなどの工事、さらに展示のための内装工事が実施されました。

平成16年4月13日、分館横井の丘ふるさと資料館はオープンしました。地域コミュニティや学校教育の場における活用を期待しての開館でした。



▶平成16年4月13日 開館式旧横井小の児童も参列



▶1階展示室「豊栄の原始・古代」コーナー



▶1階展示室「木崎村小作争議」コーナー



▶2階展示室「民具で知る昔の暮らし」

展示の内容は、1階では、豊栄の原始・古代、水との関わり、木崎村小作争議などの展示、2階では、小学生などのふるさと学習の場として利用できる民俗資料の展示。また階段・踊り場では、豊栄市内の小中学校の移り変わりの展示と「担ぐ・包む体験コーナー」を設置しました。

小学生を対象としたふるさと学習では、小学校3年生の「昔の道具とくらし」、小学校4年生の「福島潟の干拓の歴史」など、学校教育の一環として、昭和30年代頃までの農具・漁具・生活用具などの民具の見学など、多くの子ども達から利用されました。

また1階には、「葛塚縞」の手織機などの資料を展示・紹介するコーナーを設置しました。さらに手織りの技術の保存と伝承に向け、「葛塚縞手織りの会」の活動の拠点とし、会の協力により手織機の実演と、夏休み期間の子ども達の体験の場として活用されました。

無人施設のため、見学の場合は、隣の木崎保育園から鍵を借りて見学するという、不便な利用方法でしたが、平成16～29年度まで多いときは、年間800人程の利用がありました。

2 一般公開の利用中止へ

平成16年の開館以来、多くの地域の皆さま、そしてたくさんのお子様達から愛され、親しまれた分館ですが、老朽化が進み、地震や台風などによる破損や倒壊の恐れあることから、平成27年に耐震診断を実施しました。この診断結果から、地震等(0.44大地震(震度6強))の際には、倒壊する可能性が高い危険な建物であるとされました。耐震工

事の見込みも立たないことから、一般の利用、学校授業の場としての利用は不適と判断し、平成29年5月1日から一般公開を中止しました。

この利用中止を受けて、分館に収蔵されていた資料の保管に関しては、平成23年に合併建設計画により、水辺の公園福島潟地内に建設された郷土資料収蔵庫において、順次搬入が進められました。

3 解体にむけて

現在、新潟市においては、公共施設の再編見直しの取り組みが行われています。これは、昭和50年代に多くの建物が建築されている中、今後老朽化が進み、大きな改修が必要となってくること、さらに今後、人口減少が続く、将来的にさらに厳しい財政状況が見込まれるとしている新潟市において、全ての公共施設を現状のまま、維持していくことは難しく、公共施設のあり方の見直しが必要とされることからです。見直しでは、施設の集約化や多機能化などを進めつつ、サービス機能をなるべく維持していくとしています。

令和2年1月から12月まで、木崎地域において、地域全体の公共施設の将来のあり方を検討するため、コミュニティ木崎村の構成メンバーや、木崎中学校区の関係団体等、地域の皆さまと共に、ワークショップが3回開催されました。検討の中で、意見や課題などが出され、木崎地域の公共施設の再編計画となる「木崎地域実行計画」が令和3年4月に策定されました。

分館のあり方についても、このワークショップの中で検討



▶夏休み事業 「手織り体験教室」



▶1階展示室 「葛塚縞」コーナー



▶「葛塚縞手織りの会」の活動

されました。分館は、耐震性能が不足していることから、隣接する木崎保育園利用者の安全性の確保のため、収蔵資料移転後に解体すること、また収蔵資料は、適切に管理し、2021年度に資料移転、2022～2023年度に解体という方針・スケジュールが出されました。

4 解体後について

令和4年度、横井の丘ふるさと資料館の解体にあたり、資料館に残されていた大型の民具（新潟市指定文化財・ハンリョウブネなど）は、郷土資料収蔵庫に移転し適切に保管・活用するよう努めていきたいと考えています。

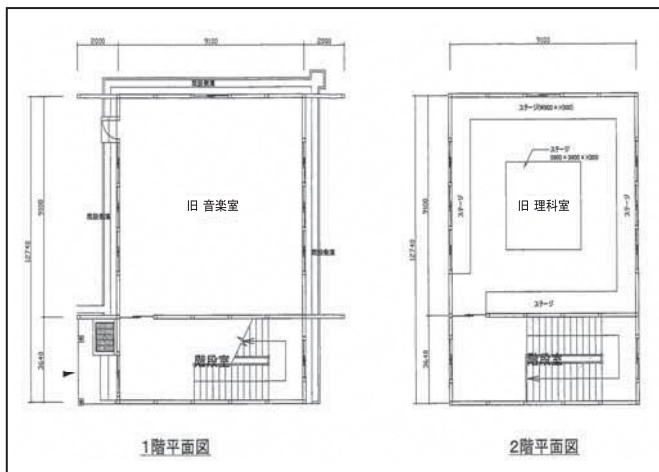
また、学校と連携して行っていたふるさと学習については、平成27年度に本館の常設展示のテーマを「阿賀北の大地と人々の暮らし」としてリニューアルしたことを機に会場を本館に移し、さらに、平成28年度からは、企画展「昭和の暮らし展」をシリーズ化し、この民俗資料の展示を含め学習の場として、当館ボランティアガイド「市民ガイド」の皆さんと協力し、実施しています。

また、分館で活動していた「葛塚縞手織りの会」については、その活動の場を本館に移し、本館常設展示を拡大する形で、「葛塚縞展示コーナー」を設置する予定です。ここでは、手織りの技術の保存・伝承のため、会の活動そのものを、生きた展示として、広く市民の皆さまにご覧いただけるよう令和5年1月のオープンに向け、準備を進める予定です。

分館横井の丘ふるさと資料館で展開されてきたそれぞれの活動をしっかりと本館に受け継ぎながら、さらに展開していけるよう取り組んでいきたいと考えています。今後も引き続き、皆さまのご理解とご協力をお願いしたいと考えています。

60余年の歴史を持った建物が、いよいよその役割を終える時期を迎えています。その果たしてきた役割に深く感謝するとともに、一つの展示収蔵スペースを失う当館としては、継続的に地道な資料整理を行いつつ、今後の資料収集と保存の在り方について、大きな課題として、検討の必要性を痛切に感じているところです。

■建物図面



▶懐かしそうに民具に見入る地域の皆さん



▲小学3年生・4年生の「ふるさと学習」

■施設概要

開館：平成16年4月13日（旧横井小学校特別教室）
 構造・延床面積：木造2階建て・231.86㎡
 所在地：新潟市北区横井257-1
 一般公開中止：平成29年5月1日
 廃止：令和4年3月31日

1 展示活動

(1) 常設展示「阿賀北の大地と人々の暮らし」
(考古・歴史・民俗・芸術(書))

(2) 企画展及び関連事業

① 常設展拡大企画

昭和の暮らし展 昔の子どもたちの日々(前年度から継続)
常設展示の一つのテーマを掘り下げて展示する企画展。
シリーズ5回目の本展では、学校で使われていた教科書や
備品、手作りの遊び道具などのほか、家の“働き手”として
子どもたちも使った道具を展示し、生活の苦労の中にあっ
た数々の工夫や楽しみを紹介した。

・会 期 R3.1/5(火)～5/16(日)

・入館者数 2,494人(4/1～5/16は911人)

・展示点数 99点

・展示構成

まなぶ(学校でまなぶ・家でまなぶ)、はたらく、あそぶ
体験コーナー・ひみつ基地で遊ぼう(昔の遊び)
・天びん棒を担いでみよう

・展示解説会

4/10(土)・4人 4/24(土)・14人 曾部珠世



展示解説会(4/10)

② 美術企画展「本の読みかた、愛しかた」

知の宇宙ともいべき百科全書。「読める本」の限界に挑
戦した「豆本」。実用から逸脱した愛蔵のための極小本や工
芸的な私刊本。「本とは何か」をさまざまに表現してみせる
美術作品。文字を「読む」のではなく、「見ること」を求め
る折帖(おりじょう)。知の蓄積が発生の起源である「博物
館」において、「本とはなにか」をさまざまな視点から探究。
本とは「読むもの」「読まねばならないもの」という常識を
覆す本の奥深さを紹介した。

・会 期 6/5(土)～7/11(日)

・入館者数 755人

・出品作家 池田純夫、上田桑鳩、笠井千鶴、佐藤公平、
長沢明、深井隆、舟見俊二
他に、高橋友太郎が企画・発刊した私刊本、
弦巻松蔭旧蔵の豆本
(太字は、当館所蔵作品・資料を出品)

・展示点数 52点

・作品鑑賞会

6/20(日)・10人 7/4(日)・15人 神田直子



作品鑑賞会(6/10)

③ 第24回 松蔭賞書道展

郷土出身の書家 弦巻松蔭にちなみ、書に親しむ機会づく
りの一環として市内の児童・生徒から課題作品を公募して
開催した。応募点数は2,273点で、入選・入賞作品238点を
展示。また、新型コロナウイルス感染症対策のため、一日に3回、
部門別に表彰式を開催した。

・主 催 新潟市北区

・会期 7/24(土)～8/29(日)

・入館者数 1,004人

・対 象 新潟市内の小学校3年生～中学生

・審査員(五十音順)

伊豆名皓美氏(にいがた文化の記憶館 学芸員)
岡村 鉄琴氏(新潟大学教育学部 教授)
佐藤 奎玉氏(書家・新潟県書道協会 参事)
和泉 哲章(新潟市立白南中学校 校長)

・応募校等

北区内 … 小学校10校
中学校 5校
市内他区… 小学校 3校
中学校 6校
書道教室… 10校
個人応募… 11人

・学年別応募数内訳(点)

※()内は教室・個人	
小3	395 (49)
小4	577 (46)
小5	419 (56)
小6	408 (62)
中1	277 (24)
中2	95 (21)
中3	102 (25)
合計	2,273 (283)

・入賞者数 松蔭賞 7人
(各学年 1人)

238人 優秀賞 21人
(各学年 3人)

特 選 70人 (各学年10人)

佳 作 140人 (各学年20人)



表彰式での審査講評(和泉哲章審査員)



展示会場

④ 第14回 新潟市北区こども科学展

新潟市北区の小・中学校児童・生徒が、夏休みに取り組んだ創意工夫、探究心にあふれる作品を「模型」「標本」「発明工夫」「観察・実験」の4部門で公募し、発表・展示した。

- ・主催 新潟市北区
- ・会期 9/18(土)～10/10(日)
- ・入館者数 1,090人
- ・対象 北区内の小・中学生
- ・審査員
 - 坂井 孝(南浜中学校 校長)
 - 田中由美恵(岡方第二小学校 校長)
 - 小林 伸(北区教育支援センター 所長)
 - 束理 守(北区地域総務課 課長)
 - 川崎 裕子(北区郷土博物館 館長)
- ・参加校 北区内小学校9校
- ・出品点数(出品者数) …149点(149人)
 - ・模型の部 … 59点(59人)
 - ・標本の部 … 9点(9人)
 - ・発明工夫の部 … 17点(17人)
 - ・観察・実験の部 … 64点(64人)



展示会場

⑤ 美術企画展

「眼と手のあいだー4人の画家が見つめた風景」

風景画に取り組んできた池田則美(1955-)、齋藤満栄(1948-)、鶴巻加代(1946-)、西村満(1935-)という新潟

市北区にゆかりのある4人の画家が描き出した世界を通して、画家のまなざしと創造の秘密を探る。

- ・会期 11/13(土)～12/12(日)
- ・入館者数 949人
- ・出品作家 池田則美、齋藤満栄、鶴巻加代、西村満
(太字は、当館所蔵作品を出品)
- ・展示点数 絵画作品 14点
- ・作品鑑賞会
 - 11/21(日)・26人 神田直子
 - 11/28(日)・15人 齋藤加奈



作品鑑賞会(11/21)



作品鑑賞会(11/28)

⑥ 常設展拡大企画

昭和の暮らし展ー日々をいろどる「食」の風景

シリーズの第6回展。今回は、さまざまな食事のシーンを通して活力あふれる昭和の一断面を紹介。

- ・会期 R4.1/4(火)～5/8(日)
- ・入館者数 1,532人(1/4～3/31まで)
- ・展示点数 76点
- ・展示構成
 - 家での食事(普段の食事、特別な日の食事)
 - 外での食事(レストラン、学校、旅)
 - 体験コーナー・天びん棒を担いでみよう
 - ・食の思い出掲示板

・展示解説会

3/26(土)・5人 齋藤加奈

2 教育普及事業 (講演会・講座・教室・講師派遣等)

(1) 博物館で楽しむ琵琶の調べ

新潟県文化祭2021芸術家派遣事業(主催 新潟県)の一環の出前コンサート事業に参加し、博物館内で古典芸能を鑑賞するミニコンサートを開催。琵琶の演奏後に演奏者によるトークも行った。

- ・期 日 10/24(日) 11:00～/14:00～
- ・参加者数 各回25人
- ・出演者 茅野琛水氏・師岡響水氏
(薩摩琵琶演奏グループ 琵琶舟)
- ・会 場 ホール



茅野琛水氏



師岡響水氏

(2) 講師派遣

① ご近所だんぎ「クイズで学ぼう 福島潟の新田開発」

- ・主 催 新潟市豊栄地区公民館
- ・期 日 5/13(木)
- ・講 師 曾部珠世
- ・参加者数 20人
- ・会 場 新潟市豊栄地区公民館

② 講座「クイズで学ぼう 福島潟の新田開発」

- ・主 催 サロン秋葉会
- ・期 日 6/24(木)
- ・講 師 曾部珠世
- ・参加者数 20人
- ・会 場 川西住良公民館

③ 民具学会公開研究会での報告

「低湿地の民俗資料の収集と活用を振り返る」

- ・主 催 新潟県民具学会

- ・期 日 11/7(日)
- ・講 師 曾部珠世
- ・参加者数 59人(会場36人、オンライン23人)
- ・会 場 新潟市歴史博物館

④ 名誉館長事業「遠藤麻理と福島潟の妖怪たち」

への出演・野外石造物の説明

- ・主 催 水の駅「ビュー福島潟」
- ・期 日 11/14(日)
- ・講 師 曾部珠世
- ・参加者数 65人
- ・会 場 水の駅「ビュー福島潟」

⑤ 早通南小学校4年生総合的な学習

「新井郷川から世界へ(早通地区の水害と地形について)」

- ・主 催 新潟市立早通南小学校
- ・期 日 12/2(木)
- ・講 師 曾部珠世
- ・参加者数 102人
- ・会 場 新潟市立早通南小学校

⑥ とよさか中高年教養大学

一般教養講座「現代美術への招待(3)」

- ・主 催 とよさか中高年教養大学
- ・期 日 12/11(土)
- ・講 師 神田直子
- ・参加者数 30人
- ・会 場 葛塚コミュニティーセンター

(3) 他館主催事業への協力

① 展示説明等

- ・主 催 新潟県立歴史博物館
- ・事 業 名 県立歴史博物館講座
「地域の資料館へ行って 生活用具をウォッチング」
- ・期 日 6/26(土)
- ・講 師 曾部珠世
- ・参加者数 8人

(4) 学習サポート(学校への職員派遣)

① 南浜小学校3年生総合的な学習の時間

「発見!南浜の歴史・・・こんなに違う!今と昔」

- ・期 日 R4.1/13(木)
- ・講 師 齋藤加奈(学習サポーター)
- ・参加者数 3年生児童等(11人)

(5) レファレンス

- ・市民の郷土史学習サポート、資料調査協力、歴史資料や郷土史関連図書の閲覧対応
- ・他の博物館や大学など研究機関への協力

3 ふるさと学習

学校や地域などと連携し、資料の紹介や展示見学の利用を図る。

(1) 学校教育の一環としての利用

① 新潟市立豊栄南小学校2年生

生活科の授業のためのインタビュー映像撮影対応

- ・期 日 8/6 (金)
- ・講 師 齋藤加奈
- ・参加者数 1人 (担任教諭)
- ・会 場 常設展示室、ホール

② 新潟市立葛塚東小学校4年生

(社会科「福島潟の干拓の歴史」)

- ・期日と人数 12/7 (火)・65人
12/9 (木)・65人

- ・講 師 曾部珠世
- ・会 場 常設展示室



画像によるレクチャーを受ける

③ 新潟市立葛塚東小学校3年生

(社会科「かわる道具と歴史」)

- ・期日と人数 R4. 1/19 (水)・64人
R4. 1/20 (木)・64人
- ・講 師 齋藤加奈 (両日)、市民ガイド 延べ3人
- ・会 場 常設展示室、ホール「昭和の暮らし展」



古い生活道具を見学する

④ 新潟市立岡方第一小学校3年生

(社会科「かわる道具と歴史」)

- ・期日と人数 R4. 2/1 (火)・12人
- ・講 師 齋藤加奈、市民ガイド1人
- ・会 場 常設展示室、ホール「昭和の暮らし展」

⑤ 新潟市立岡方第二小学校3年生

(社会科「かわる道具と歴史」)

- ・期日と人数 R4. 2/18 (金)・14人
- ・講 師 齋藤加奈、市民ガイド1人
- ・会 場 常設展示室、ホール「昭和の暮らし展」



野良着を着てみる

(2) 一般の地域学習の場としての利用

① 郷土・新潟を元気にする会

「幕末・明治の北区の教育者 曾我簡堂」

- ・期 日 4/3 (土)
- ・講 師 曾部珠世
- ・参加者数 37人
- ・会 場 集会室

② 新潟県石仏の会 (巡検での常設展示説明)

- ・期 日 10/8 (金)
- ・講 師 曾部珠世
- ・参加者数 14人
- ・会 場 常設展示室

4 市民ガイド

(常設展示ボランティアガイド)の活動

市民ガイド研修(スキルアップ研修、情報共有・情報交換)の実施、来館者対応についての調整の事務等。

(1) 活動実績

個人や団体の見学者に対し、常設展示を中心としたガイドを行うもの。

- ・一般団体見学対応 2回(見学者 93人、市民ガイド延べ 7人)
- ・個人見学対応 10回(見学者130人、市民ガイド延べ16人)
- ・学校見学対応 5回(見学者219人、市民ガイド延べ 6人)



団体観覧者を案内する市民ガイド(右3人)

(2) 市民ガイド研修

市民ガイドのスキルアップと情報共有を図る目的で行う。

① 当館企画展関連研修と情報交換

「昭和のくらし展 昔の子どもたちの日々」での研修(担当 曾部)と、令和2年度の活動実績報告、コロナ禍での令和3年度の活動について等の意見交換(担当 齋藤)を行った。

- ・実施日 4/24(土)
- ・参加者数 市民ガイド7人
- ・担当 曾部珠世、齋藤加奈
- ・研修場所 北区郷土博物館

② 当館企画展関連研修と情報交換

「美術企画展 本の読みかた、愛しかた」での鑑賞研修(担当 神田)と、8月以降の活動の確認、コロナ禍でのガイド方法の再確認と意見交換(担当 齋藤)を行った。

- ・実施日 7/11(日)
- ・参加者数 市民ガイド4人
- ・担当 神田直子、齋藤加奈
- ・研修場所 北区郷土博物館

③ 当館企画展関連研修と情報交換

「美術企画展 眼と手のあいだー4人の画家がみつめた風景」での鑑賞研修(担当 神田、齋藤)と、上半期の活動実績報告・11月以降の活動の確認等(担当 齋藤)を行った。

- ・実施日 11/21(日)
- ・参加者数 市民ガイド3人
- ・担当 神田直子、齋藤加奈
- ・研修場所 北区郷土博物館

④ 新潟市文書館施設見学・企画展見学

施設見学と、企画展「文書館所蔵資料から見る水とたたかい」の見学を、同館職員のご案内・解説(講師:高橋純氏、高野まりい氏)によって行い、近世の新潟市域における治水の歴史を学んだ。

- ・実施日 R4.3/12(土)
- ・参加者数 市民ガイド4人
- ・担当 齋藤加奈
- ・研修場所 新潟市文書館

5 博物館実習、職場体験等の受け入れ

(1) 博物館学芸員課程履修の実習生の受け入れ

- ・実習期間 8/28(土)～9/4(土)のうち7日間
- ・実習生 3人(新潟大学)

6 郷土資料収蔵庫・横井の丘ふるさと資料館の管理

- ・環境整備 ・虫の侵入防止 ・空調管理(郷土資料収蔵庫のみ)
- ・一般公開中止中の分館 横井の丘ふるさと資料館は、令和4年3月31日廃止。

7 所蔵資料(指定文化財含む)の保管・整理

(1) くん蒸処理の記録(郷土資料収蔵庫)

- ・収蔵資料のくん蒸処理(令和2年度「昭和のくらし展」で展示した民俗資料、新収蔵資料等をくん蒸) 10/4(月)～10/8(金)
- ・防虫防菌処理 10/6(水)

(2) 所蔵資料の整理の整理(収蔵歴史資料の目録点検と入力)

8 北区の文化財(指定文化財ほか)の調査整理・公開活用・保護

(1) 調査整理

- ・木崎村小作争議100周年事業にかかる調査(「10 特色ある区づくり事業」)

(2) 公開活用

① 文化財等説明板の修繕

- ・板面修繕 1件
(木崎村小作争議と無産農民学校)
- ・塗装 4件
- ・QRコード追加 2件



「木崎村小作争議と無産農民学校」の説明版

(3) 保護育成

- ・くん蒸処理(収蔵資料等)(再掲)
- ・市指定天然記念物「大久保の大ケヤキ」に関する対応(降雪による折れ枝の伐採について)
- ・市指定文化財「法淳寺」に関する対応(暴風雨による本堂外壁及び屋根装飾のき損について)
- ・看板(無産農民学校西入口)(市指定文化財)の修復(項目10を参照)

10 特色ある区づくり事業 「2022 木崎村小作争議 100 周年事業」 (令和2～4年度の3カ年事業の2年目)

木崎村小作争議は、農民が自らの生活の改善を目指した運動で、大正から昭和初期の農民運動として全国的にも知られている。令和4(2022)年度がその100周年にあたることから、この運動が北区で起こったことを再認識してもらうことを目的として実施するもの。あわせて、次世代に引き継ぐために、劣化の進んでいる歴史資料の修復を行う。
【令和3年度】

- ・「看板(無産農民学校西入口)」を東北芸術工科大学に委託して修復。
- ・修復した看板の保存ケース兼展示ケースの作成。
- ・企画展のための準備(資料調査・選定、広報印刷物・パンフレットの作成、パネル制作など)。

[令和4(2022)年度の事業計画]

分館の閉館に伴う資料の移動・整理と、本館常設展示拡張の作業のためR4.10/31(月)～R5.1/3(火)の間、休館します。

1 展示活動

- (1) 常設展示「阿賀北の大地と人々の暮らし」
(考古・歴史・民俗・芸術(書))
- (2) 常設展示拡張「葛塚縞」コーナーの設置と公開
ホールの一部を利用して常設の展示コーナーを設置し、横井の丘ふるさと資料館で展示、活用していた葛塚縞の資料を公開。

・公開開始 R5.1/4(水)

(3) 企画展及び関連事業

① 常設展拡大企画

昭和の暮らし展—日々をいどころ「食」の風景—

前年度1月から継続。シリーズ6回目。

・会期 R4.1/4(火)～5/8(日)

・体験コーナー ・天びん棒を担いでみよう
・食の思い出掲示板

・展示解説会 4/23(土)、5/7(土)

② 美術企画

「アートの世界を楽しむ」展—重なりあう線、混ざりあう色—
対話による作品の鑑賞と、ワークショップによる創造体験を通して、自由で楽しいアートの世界に触れる。

・会期 9/17(土)～10/23(日)

・作品鑑賞会 9/25(日)、10/16(日)

・ワークショップ 10/1(土)、10/8(土)

③ 常設展拡大企画

昭和の暮らし展 着るたのしみ、装うたしなみ(仮称)

昭和の時代に使われた衣服にまつわる道具と関連資料を展示し、「普段着」「余所行き(外出着)」という視点から、当時の服飾文化を紹介。シリーズ7回目。

・会期 R5.1/4(水)～5/7(日)

・体験コーナー

・展示解説会

2 教育普及事業(講座・教室、レファレンス等)

(1) ふるさと学習

学校や地域などと連携し、資料の紹介や展示見学の利用を図る。

(2) レファレンス

- ・市民の郷土史学習サポート、資料調査協力、歴史資料や郷土史関連図書の閲覧対応
- ・他の博物館や大学など研究機関への協力

(3) 刊行物販売

3 市民ガイド(常設展示解説ボランティア)の活動

市民ガイド研修(スキルアップ研修、情報共有・情報交換)の実施、来館者対応についての調整の事務等

4 博物館実習、職場体験等の受け入れ

- ・博物館学芸員課程履修の実習生の受け入れ

5 郷土資料収蔵庫管理

- ・環境整備 ・虫の侵入防止
- ・空調管理(郷土資料収蔵庫のみ)

6 横井の丘ふるさと資料館(分館)の廃止・解体に伴う業務

- ・資料搬出、郷土資料収蔵庫への搬入
- ・資料のくん蒸と、郷土資料収蔵庫収蔵室内への配架、本館への一部移動
- ・横井の丘ふるさと資料館の解体

7 所蔵資料(指定文化財含む)の保管・整理

- ・くん蒸処理(各分野の所蔵資料・新収蔵資料等)
- ・歴史資料の整理作業(目録化等)
- ・民俗資料の整理作業(台帳化、郷土資料収蔵庫配架等)
- ・美術作品の整理作業(台帳整理等)
- ・外部依頼の整理作業(歴史資料目録のデータ入力等)

8 北区の文化財(指定文化財ほか)の関連業務

(1) 調査整理

- ・木崎村小作争議関連資料の調査整理

(2) 公開活用

- ・木崎村小作争議関係資料(市指定文化財)の公開

(3) 保護育成

- ・くん蒸処理(収蔵資料等)(再掲)
- ・県指定天然記念物「高森の大ケヤキ」、市指定天然記念物「大久保のケヤキ」に関する対応

9 令和2～4年度特色ある区づくり事業

【令和4年度の事業】

「生活の向上を求めた小作農民と地主眞嶋桂次郎展—史料でさぐる小作と地主それぞれの思い—」

木崎村小作争議は、農民が自らの生活の改善を目指した運動で、大正から昭和初期の農民運動として全国的にも知られている。令和4(2022)年度がその100周年にあたることから、この運動が北区内で起こったことを再認識してもらうことを目的に開催。

- ・主催 新潟市北区・新潟市北区郷土博物館
- ・会期 5/28(土)～8/28(日)
- ・講演会 6/11(土)、7/2(土)
- ・バスツアー 6/12(日)、6/25(土)
- ・北区内中学生の見学会

その他の事業

- ・修復した看板(市指定文化財)を企画展で公開。
- ・企画展の総括として、展示の記録、修復の報告とともに、関連資料をまとめた「記録・報告集」を作成。

令和3（2021）年度 入館状況

9/3～16は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館。

12/28～1/3は年末年始のため休館。分館 横井の丘ふるさと資料館は平成28年より休館の後、令和4年3月31日で廃止。

月別	入館者数(人)	主な行事
R3. 4月	610	昭和の暮らし展—昔の子どもたちの日々 1/5～5/16
5月	470	昭和の暮らし展—昔の子どもたちの日々 1/5～5/16 (計2,494人 ※4/1～5/16は911人)
6月	553	美術企画展 本の読みかた、愛しかた 6/5～7/11
7月	570	美術企画展 本の読みかた、愛しかた 6/5～7/11 (755人) 第24回 松蔭賞書道展 7/24～8/29
8月	800	第24回 松蔭賞書道展 7/24～8/29 (1,004人)
9月	781	第14回 新潟市北区こども科学展 9/18～10/10
10月	648	第14回 新潟市北区こども科学展 9/18～10/10 (1,090人)
11月	530	美術企画展 眼と手のあいだ—4人の画家がみつめた風景 11/13～12/12
12月	677	美術企画展 眼と手のあいだ—4人の画家がみつめた風景 11/13～12/12 (949人)
R4. 1月	530	昭和の暮らし展—日々をいろどる「食」の風景— 1/4～5/8
2月	372	昭和の暮らし展—日々をいろどる「食」の風景— 1/4～5/8
3月	630	昭和の暮らし展—日々をいろどる「食」の風景— 1/4～5/8 (計1,532人 ※1/4～3/31)
合計	7,171	

■館外事業参加者数

合計 113人

- ・出前授業（北区内小学校） 12/2（102人）
- ・学習サポート（北区内小学校） R4. 1/13（11人）

寄贈資料紹介

2021（令和3）年度、次の方々より貴重な資料の寄贈を受けました。厚くお礼申し上げます。

【歴史資料】

- 伊藤 昇 様（北区）…………… 拓本『新崎郵碑』（額装）1点
 森田 伸行 様（北区）…………… 江戸～大正期の文書類一式（村方文書、書状など）
 内山 周治 様（北区）…………… 告示札（昭和22年 松浜橋渡橋使用料について）1点

【民俗資料】

- 森田 伸行 様（北区）…………… 布団3点、夏屏風1点
 山川 昭一 様（北区）…………… 羽釜（体験用）1点

【美術資料】

- 齋藤 満栄 様（神奈川県）…………… 日本画作品「白罌粟の辺り」「秋草」「風渡る」「重九の節」計4点

【図書】

- 新潟郷土史研究会様（西区）…………… 新潟郷土史研究会編「郷土新潟 第61号」
 新発田郷土研究会様（新発田市）…………… 新発田郷土研究会編「新発田郷土誌 第49号」
 北越考古学研究会様（新発田市）…………… 戸根与八郎・阿部朝衛・石川日出志・島吾郎・田中耕作・鈴木暁編
 「地域考古学を歩む—関 雅之先生の足跡—」
 橋本 博文 様（西区）…………… 文化財保存全国協議会編「明日への文化財 八一号」など4冊

寄贈のお願い

当館では、資料の充実を図るため収集活動を行っています。ご寄贈いただける資料がありましたらお知らせください。

令和3年度新収蔵美術作品の紹介

齋藤満栄氏からの寄贈により、絵画作品4点（表紙掲載作品含む）を収蔵しました。



1 秋草



3 重九の節

1. 「秋草」1993年
岩絵具、紙
173.4×218.5 cm
再興第78回院展出品
2. 「風渡る」2004年
岩絵具、紙
165.0×210.0 cm
再興第89回院展出品
3. 「重九の節」2005年
ちょうよう
岩絵具、紙
164.1×209.1 cm
再興第90回院展出品



2 風渡る

- 1948 北蒲原郡葛塚町（現新潟市）に生まれる。
1972 多摩美術大学日本画科を卒業。
第27回新潟県美術展覧会で、県展賞を受賞。
1973 第7回文化庁現代美術選抜展で文部大臣賞を受賞。
1979 再興第64回日本美術院展に出品。以後、毎回出品。
2006 日本美術院同人に推挙される。
2011 「新潟の画家たち」展（主催 新潟県立万代島美術館・新潟日報社／会場 新潟県立万代島美術館（新潟市））に出品。
2013 松坂屋名古屋店・上野店、大丸京都店で個展開催。
2016 第69回新潟日報文化賞受賞。
2018 高島屋日本橋店・大阪店で個展開催（横浜店・京都店に巡回）。

所蔵資料《看板（無産農民学校西入口）》の修復について

この資料は、大正から昭和初期に起こった農民運動である「木崎村小作争議」（10頁参照）において、小作人たちが自らの師弟を通わせた「無産農民学校」（1926（大正15）年建設）の西入口の看板で、新潟市指定文化財です。1981（昭和56）年に個人より当館に寄贈されました。

高さ180cm程の薄い一枚板のこの資料は、寄贈までに約半世紀が経過していたこともあり、収蔵当時から木の性質上、虫害や亀裂などの損傷がみられました。そこで、「木崎村小作争議100周年事業」を契機に、令和2年度から3年度にかけて東北芸術工科大学（山形県）に業務を委託し、詳しい状態調査と修復を行いました。

調査では、赤外線やエックス線を用い、資料の表面や内部の構造・損傷状態を確認しました。その結果、肉眼ではとらえられない虫害（虫食い跡）や腐朽の存在が明らかになりました。

そこで、修復にあたっては、この資料が看板として製作、使用されてから今日に至るまでの歴史性・時間性を尊重し、見た目はそのままに、損傷に起因するこれ以上の劣化を防ぐための必要最低

限の処置として、細かな虫害箇所の補強を中心に処置を行いました。さらに、展示と保存のための専用ケースを作製し、より安定した状態での活用と長期の保存が可能となりました。

「生活の向上を求めた小作農民と地主眞嶋桂次郎展」では、歴史の生き証人といえる本資料を通して、当地に生きた先人達の思いの一端に触れていただきたいと思います。（齋藤加奈）



アクリル樹脂による虫害箇所充填の様子
（写真提供：東北芸術工科大学）



修復後の資料